

シラバス

SO 60111

アジア共同体とアセアン

3 (3-0-6)

準備：不要

昨今アジア共同体に関する議論が活発になされつつあるが、AEC（アセアン経済共同体）もその前段階といえよう。タイはアセアンのメンバーであり、アセアン内では、自動車やIT部品等の工業化でもっとも成功した国であり、それら商品の供給者としても消費者としても重要な役割を果たすと期待されている。一方で、最近の中国経済のブレーキ、タイやマレーシアのいわゆる「中進国の罫」問題、アメリカ大統領選挙の行方等で世界経済の減速、グローバリゼーションの停滞等が心配されている。アセアンは、民族、宗教、言語、文化、歴史等が多様で、そうした違い・多様性を考慮した上で統合を考えないと問題の本質に迫ることはできない。このクラスでは、AEC、RCEP（東アジア地域包括的経済連携）、TPP（環太平洋経済連携）、FTAAP（アジア・太平洋自由貿易地域）等の内容紹介と同時に、各国が持つ多様性が原因する統合の阻害要因、遅延等を分析し、経済要因のみならずより総合的に共同体の意味を探る。また講師たちは講義を基に英語の教科書を編纂する予定。これらの講義ならびにその成果としての教科書は、アジア共同体の創成に必ずや資するものと確信する。

このクラスは、英語で行われ主に国際近代取引経営学科（iMTM）を対象とするが、教養学部、ビジネス・アドミニストレーション学部や他の学部でも興味のある学生は取ることができる。

スケジュールと担当教諭	講義	日程 2017年
1 Dr. Sompop Manarungsan (PIM 学長)	グローバリゼーションとアジア共同体—タイの現状と役割	(1/20)
2 Dr. Tang ZhiMin (PIM)	アジア共同体とアセアン—中国の役割	(1/27)
3 Dr. Somrote Komolavanij (PIM)	アセアンの歴史	(2/3)
4 Dr. Ruengsak Kawtummachai (CP グループ)	AEC はアジア共同体の第一歩か	(2/10)
5 Dr. Veerisa Chotiyaputta (PIM)	タイ・タイ周辺国への外国直接投資の影響	(2/17)
6 Mr. Souknilanh Keola (バンコク研究センター)	アジア共同体と内陸国—ラオスの歴史と社会	(2/24)
7 Dr. Thida Kyu (ヤンゴン経済大学)	自由化の初段階—ミャンマーの政治、経済状況	(3/3)
8 Dr. Kriengkrai Techakanont (タマサート大学)	アセアンの生産ネットワークと共同体	(3/10)
9 Dr. Ikuo Kuroiwa (バンコク研究センター)	アセアン・グローバリゼーションとアジア共同体	(3/17)
10 Dr. Mitsuhiro Kagami (PIM)	アジア共同体の阻害要因か？—TPP と日本 及び中間試験	(3/24)
11 Mr. Chaiyaporn Singdee (キング・モンクット 工科大学)	タイの社会とアジア共同体	(3/31)
12 Dr. Usanee Kulintornprasert (PIM)	タイの教育とアジア共同体	(4/7)
13 Ms. Tipawan Apiwanworarat (PIM)	アセアンの交互作用文化と多様性	(4/21)
14 Mr. Singtong Lapisatepun (タイ外務省)	宗教と東アジア	(4/28)
15 Mr. Yoji Sato (ワンアジア財団理事長)	期末試験と特別講演	(5/12)

日時：2 学期 2017 年 1 月 20 日より 5 月 12 日まで 毎週金曜日 9：30—12：30 (3 時間)

※講義日程および内容は講師の都合等により変更になることがあります。